

洗足学園音楽大学  
グリーン・タイ  
ウインド・アンサンブル  
演奏会

Senzoku Gakuen College of Music Green-Tie Wind Ensemble

企画運営責任者

伊藤 康英

指揮

ティモシー・レイニッシュ

元・王立ノーザン音楽大学教授

藤岡 幸夫

関西フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者

2017年6月22日(木)

18:30 開演 [18:00 開場]

洗足学園 前田ホール



洗足学園音楽大学



このたび、22年ぶりに日本を訪れることができるのは私にとって大きな喜びです。前回日本を訪れたのは1995年のWASBE（世界吹奏楽大会）で、その時に伊藤康英氏と初めて出会ったのです。その後、彼をWASBEの理事に推薦し、それ以来私も日本の吹奏楽作品をいろいろと聴くようになり、自分のウェブサイトでも紹介してきました。

今夜は皆様、ようこそおいでくださいました。特に東京のプリティッシュ・カウンシルのディレクターであるマット・バーニー氏（ちなみに彼は、私の勤務校であった王立ノーザン音楽大学で学んだことがあるそうです）、作曲家の後藤洋氏、さらには日本の吹奏楽の父ともいえる秋山紀夫氏にもいらしていただき、たいへん光栄です。

本日のプログラムは、私が現在ヨーロッパの吹奏楽の作曲家の中でもっとも優れていると思う3人の作曲家を紹介すべく選んだものです。前半には、パーシー・グレインジャーのめったに演奏されない「民主主義行進の歌」、ホルストの古典的名作「吹奏楽のための第1組曲」（偉大なるフレデリック・フェネルは、この曲を20世紀の吹奏楽レパートリーの原点だと見なしていました）、そして伊藤康英氏の巧みな編曲によるバッハの無伴奏ヴァイオリンのための「シャコンヌ」（世界初演）を置きました。

私はプログラムを組む時には、emotional（情緒的）- musical（音楽的）- intellectual（知的）- technical（技巧的）という4つの条件（頭文字を取ってEMIT）を満たす曲を選ぶようにしています。すなわち、単にバンドの技量をひけらかすためではなく情感に訴えかける曲、解釈の幅があってフレージングやバランスに工夫が必要な曲、曲が単純すぎず、拍子やフレージング、和声の点で練習のしがいがあるもの、そしてバンドの演奏水準を伸ばし、さらに聴き手の感じ方や視野を広げてくれる作品です。

こうした条件をつねにクリアする作品を生み出しているのが、アダム・ゴープ、ケネス・ヘスケス、そしてルイス・セラノ・アラルコンの3人の作曲家であり、今夜は彼らの代表作を取り上げます。彼らの作品の多くは、YouTubeやCDで聴けるので、このコンサートを通じて日本でも彼らの音楽に対する関心が高まればと願っています。

ティム・レイニッシュ  
ウェブサイト Timreynish.com

I am delighted to be back in Japan after twenty two years; my last visit was for the WASBE Conference in 1995, which was when I first met Yasuhide Ito. I later recommended him for the board of WASBE, and since then I have listened to much Japanese music and written about it with enthusiasm on my website.

A warm welcome to everyone this evening, especially the Director of the British Council in Tokyo, Matt Burney, incidentally a former student briefly of my old College, the Royal Northern College of Music, and the composer Yo Goto, and the "father" of Japanese band music, Toshio Akiyama.

My programme has been carefully chosen to introduce three composers who are to my mind the leading European wind band composers of today. Their works are prefaced by Percy Grainger's unique and rarely heard Marching Song of Democracy, Holst's iconic Suite No 1 in Eb, a work on which the great Frederick Fennell felt that repertoire of the 20th century was based, and a world premiere of Yasuhide Ito's masterly transcription of the Bach Chaconne for solo violin.

When I programme, I look for works which will fulfil four criteria, summed up by the mnemonic EMIT - emotional - musical - intellectual - technical. Works which have an emotional impact and are not merely showy vehicles for the band - works which can be interpreted and in which we can work on phrasing and balance - works which are not too straightforward and which have little challenges in metre, in phrasing and in harmony, - works which will stretch the band's playing and the audience's reactions and perceptions a little.

Three composers whose works meet my criteria consistently are Adam Gorb, Kenneth Hesketh and Luis Serrano Alarcón, and tonight we are tackling three typical works by them. A great deal of their repertoire can be found on Youtube and on CDs, and I hope that this concert might stimulate interest in their music in Japan.

Tim Reynish  
Website : Timreynish.com



ティモシー・レイニッシュ(客演指揮)

Timothy Reynish

ケンブリッジ大学卒業後、サドラーズ・ウェルズ・オペラ管、バーミンガム市交響楽団などで首席ホルン奏者を務める。指揮をジョージ・ハースト、チャールズ・グローヴス、エイドリアン・ボルト、ディーン・ディクソン、そしてシエナのキジアーナ音楽院にてフランコ・フェラーラに学んだ。ニューヨークのミトロプーロス国際指揮者コンクールの優勝者として、英国の主要なオーケストラを指揮。1975年、王立ノーザン音楽大学の大学院指揮科の助手として招かれ、その2年後に管打楽器科の主任に任命された。同大ではオペラの指揮も手がけ、「フィガロの結婚」「魔笛」「ラ・ボエーム」「期待」やブリテンの数々のオペラを指揮した。王立ノーザン音楽大学管弦楽団とは、ベートーヴェン、ブラームス、ドヴォルジャーク、チャイコフスキー、ブルックナー、マーラーらの交響曲、リヒャルト・シュトラウスの交響詩、ストラ

ヴィンスキーの「火の鳥」「ペトルーシカ」「春の祭典」、ヴェルディの「レクイエム」、ティベットのオラトリオ「我らの時代の子」などを指揮した。レイニッシュは、世界屈指のウィンド・バンドおよびウィンド・アンサンブルの指揮者として知られている。王立ノーザン音楽大学では、ウィンド・オーケストラとウィンド・アンサンブルを世界最高の水準に引き上げ、また著名な作曲家たちに100曲以上の新作を委嘱、音楽祭にも定期的に出演した。これまでアジアを始め、カナダ、南米、ヨーロッパ、米国でクリニックや講演、客演指揮およびコンクールの審査を行っており、Maecenas Music出版のエディターも務める。国際色に富んだレパートリーを収録した商業レーコーディングは17枚におよび、最新盤は米国の沿岸警備隊バンドとの録音である。2015年はシドニー音楽院でウィンド・オーケストラの客演指揮者を7週間務めたほか、リスボン音楽院、香港およびドイツで演奏会を行なった。昨シーズンは、ロンドンの王立音楽大学とトリニティー・ラバン大学、イサカ・カレッジ、シンガポールおよび米国などで演奏会を行なった。



藤岡 幸夫(客演指揮)

Sachio Fujioka

関西フィルハーモニー管弦楽団 首席指揮者  
公式ファンサイト <http://www.fujioka-sachio.com/>

英国王立ノーザン音楽大学指揮科卒業。「サー・チャールズ・グローヴス記念奨学賞」を特例で受賞。

1993年BBCフィルの定期演奏会が「タイムズ」紙などで高く評価されると、1994年にロンドン夏の風物詩「プロムス」にBBCフィルを指揮してデビュー。大成功を収め、以後ロイヤル・フィル、ロイヤル・リヴァプール・フィル等多くの海外オーケストラに客演。スペインでのオペラ公演デビューとなった2006年スペイン国立オヴィエド歌劇場ブリテン「ねじの回転」がその年の同劇場の新演出オペラのベスト・パフォーマンス・オブ・ザ・イヤーに選ばれると、2009年にはR.シュトラウス「ナクソス島のアリアドネ」で再び脚光を浴びた。2016年3月にはブリュッセルでオーギュスタン・デュメイ、ヴァレリー・アフアナシエフと共演。2017年5月にはアイルランド国立交響楽団にマーラーの第5交響曲で客演、聴衆総立ちの大成功を収めた。

マンチェスター室内管弦楽団首席指揮者、日本フィル指揮者を経て、現在関西フィル首席指揮者。毎年40公演以上を指揮し2017年で18年目のシーズンを迎えた関西フィルとの一体感溢れる演奏は、常に聴衆を魅了し高い評価を得ている。

英シャンドスと契約し、これまでにBBCフィルと8枚のCDをリリース。関西フィルとはALM RECORDSにシベリウス交響曲全曲録音を進行中。

大晦日のテレビ東京系全国ネット「東急ジルベスター・コンサート」に2回、「題名のない音楽会」など、テレビ、ラジオへの出演にも幅広く活躍。放送3年目を迎えているBSジャパン「エンター・ザ・ミュージック」（毎週月曜23:00-）の立ち上げに参画し、指揮・司会として関西フィルと共に出演中。2002年渡邊暁雄音楽基金音楽賞受賞。

本グリーン・タイ ウィンド・アンサンブルとの共演も今年で3回目を迎える。



## パーシー・オールドリッジ・グレインジャー／民主主義行進の歌 (約6分)

Percy Aldridge Grainger(1882-1961) / *Marching Song of Democracy*(1948)

## グスタフ・ホルスト(伊藤康英校訂版)／吹奏楽のための第1組曲 (約10分)

Gustav Holst(1874-1934) (edited by Ito, Yasuhide) / *First Suite for Military Band E-flat Major*(1909)

1. シャコンヌ
2. 間奏曲
3. 行進曲

## ヨハン・セバスチャン・バッハ=伊藤康英／シャコンヌ(全曲版新編曲・初演) (約12分)\*

Johann Sebastian Bach(1685-1750) (arr. by Ito, Yasuhide) / *Chaconne for Wind Ensemble*(new arrangement, premiere)

## ケネス・ヘスケス／ダンスリーズ (約15分)

Kenneth Hesketh(1968-) / *Danceries*(1999)

1. 汝がもとに想わせたまえ
2. うずら捕り
3. 貴婦人の安息
4. クオドリングの歓び

intermission

## ルイス・セラノ・アラルコン／ドウエンデ 吹奏楽のための4つの前奏曲(日本初演) (約16分)

Luis Serrano Alarcón(1972-) / *Duende, Four preludes for Symphonic Wind Ensemble*(2010)

1. アレグロ・ジュスト
2. アニマート
3. カデンツァーレント・エヴォカティーヴォ
4. テンポ・デ・プレリア

## アダム・ゴープ／イディッシュ・ダンス (約14分)

Adam Gorb(1958-) / *Yiddish Dance*(1998)

1. ホーシドゥル
2. テールキシエ
3. ドイナ
4. ホラ
5. フレイラッハ

\*指揮:藤岡 幸夫

使用楽譜: G.Schirmer, Inc.

## 民主主義行進の歌

(P.A.グレインジャー)

原曲の作曲1901~1917年。吹奏楽編曲1948年。  
「愛する母へ捧げる—私たちはウォルト・ホイットマンへの敬愛において結ばれている」

グレインジャー自身、この作品について次のように述べている。  
「1900年のパリの万国博覧会の折、街を散歩している途中に思いがけずジョージ・ワシントンの像に遭遇し、なぜだかこの偶然の出来事に触発されて、楽観的で人道的な民主主義の軽快な行進を音楽作品によって表現したいという強い欲求にかられたのだ。 (中略)

当初の計画では、この民主主義の行進歌を歌と口笛(器楽なし)のために作曲し、老若男女たちが野外で行進して、その足音のリズムにのせて歌ったり口笛を吹いたりしながら演奏するという

ことを考えていました。しかしながら、のちに、作品の性格にそもそも内在する器楽的な色彩を出す必要を感じ、コンサート・ホール用に編曲したのでした。でも、作品の背後には、最初から最後までこの活発な野外の精神があることを理解しなければなりません。

歌のパートは、子どもたちが無意識に歌う時によく使う「ナンセンス言葉(音節)」で書かれています。その理由は第一に、こうしたポリフォニックな作風の曲では、言葉を使わないほうがより多彩で直感的なヴォーカリズムが得られると思ったからです(個人重視の民主主義的な傾向というのは、音楽でいえば自由に動く多声の語法になるでしょう)。第二に、言葉というのは当然ながらその瞬間瞬間にある特定の考えを表現するものですが、この曲ではそうした特定の意味と結びつけるのではなく、あまり考えることなく全体を支配するエモーショナルなムードにひたることを目指したかったからです。」

## 吹奏楽のための第1組曲

(G.ホルスト／伊藤康英校訂)

1. Chaconne
2. Intermezzo
3. March

吹奏楽の「古典的名作」として名高いこの作品は、1909年に「突如として現れた」(F.フェネル氏)という。ただ、スコアが1970年頃まで行方不明であった。本日の演奏は、伊藤がロンドンの大英図書館においてホルストの手書き譜をもとに校訂した、もともと原典に近い版による演奏。(経緯などは、日本楽譜出版社刊のポケット・スコアに簡潔にまとめてある)。

シャコンヌは3拍子の舞曲。低音に現れる主題が反復されつつ変奏される。

間奏曲は、快活にして色彩的な楽章。

行進曲の中間部に現れるメロディーは、ホルストのかの有名な「木星」のメロディーにも劣らない美しいメロディー。ただし、すべてのメロディーは冒頭のシャコンヌ主題から紡ぎ出されているという見事なまでの構成。

使用楽譜: ItoMusic/Brain(Bravo)Music

## シャコンヌ(J.S.バッハ=伊藤康英)

30年越しに全曲版編曲完成、とは極端な言い方であるが、バッハの無伴奏ヴァイオリン曲を吹奏楽にしたら、と、30年近く前に約半分のサイズながら吹奏楽編曲を作った。

このバッハの作品は、多くの作曲家を刺戟し、J.ブラームス(1833-97)の(左手のみによる)ピアノ編曲、はたまた斎藤秀雄(1902-74)によるオーケストラ編曲など、さまざまな編曲がある。とりわけ、F.ブゾーニ(1866-1924)によるダイナミックな編曲は、バッハ作品の再創造として、広くピアノのレパートリーとなっている。そう、それこそが「編曲」なのだ。原曲の持ち味からの新たな創造。ならば、吹奏楽ならではの色彩を生かしたものが作れないか、と考えたのがきっかけだった。冒頭部分はトロンボーンのアンスンブルで、と、畏友である渡部謙一氏(現・北海道教育大学)の一言でアイデアがわき、ブゾーニ版を参考にしつつシェーンベルクの音色旋律ふうな処理による細かいオーケストレーションを施した。

今回の全曲版で、十数分の長さのこの作品をどれだけ吹奏楽の色彩で埋めることができたか、「シャコンヌ」という「舞曲」を表現できたか、どうぞお楽しみに。

使用楽譜: 未出版(ItoMusic/Brain(Bravo)Music 予定)

## ダンスリーズ(K.ヘスケス)

1. Lull me beyond thee
2. Catching of Quails
3. My Lady's Rest
4. Quodling's Delight

ダンスリーズは、オーケストラのための原曲からウィンド・バンドのために編曲され、2000年4月14日、クラーク・ランデル指揮、王立ノーザン音楽大学ウィンド・オーケストラによって初演された。

作曲者による解説

曲名の「ダンスリーズ Danceries」とは、17世紀に英国で出版されたブレイフォードの《ダンシング・マスター》という民謡や伝承曲

を集めた舞曲集に由来する。当時、この舞曲集を使ってフィドルの名手たちはさまざまな踊りのステップを教えていた。私の「ダンスリーズ」については、踊りの敏捷性を高める助けにはならないが、せめて聴きながら足でリズムを取ってもらえればと思う。

本作で使った旋律は、新しいものあれば古いものもある。既存の古い旋律を使った場合は、雰囲気も構成も変えて、まったく新しい素材と組み合わせている。さらに和声とリズムでこうした主題に新風を吹き込み、作品全体にドラマを加えている。

第1曲〈汝がもとに想わせたまえ〉は、優しく軽やかな舟歌風の曲で、「夢想 reverie」ともいえよう。「ロビン気まぐれ」という古い旋律に基づいている。この主題は、18世紀のジョン・ゲイの《乞食オペラ》の中にも、「Would you have a young lady」というタイトルで用いられている。

第2曲〈うずら捕り〉は、オリジナルの旋律に基づいた色彩豊かで快活なスケルツォ。主題はバンドのさまざまなパートを行き来し、フル編成のトゥッティ部分と対照をなす。最後の数小節では消え入るような弱音となるが、ラストにサプライズが!

第3曲〈貴婦人の安息〉はきわめて柔らかなバヴァースで、ムーア風のオリジナルな旋律に基づいている。木管や金管のソロのあいだに温かみのあるトゥッティ部分が挟まれる。最後にテーマがもういちど提示されてクライマックスを迎え、終わりはフルートとトランベットの音が伸ばされて消えていく。

終曲〈クオドリングの歓び〉では、ブレイフォードの曲集からの旋律(「女神たち」というタイトル)と、オリジナルの対照的な旋律を組み合わせている。この「ダンスリーズ」第1集を締めくくるにふさわしい劇的で華麗なエンディングである。

ケネス・ヘスケスは1968年リバプール生まれ。ロンドンの王立音楽大学でエドウィン・ロクスバラ、サイモン・ベインブリッジ、ジョセフ・ホロヴィッツに作曲を師事。在学中からすでにロイヤル・リバプール・フィルや他のグループより作品を委嘱、初演。オーケストラ作品、室内楽曲のほか、イングリッシュ・ナショナル・オペラ・スタジオのために室内オペラも作曲。「ダンスリーズ」は彼がウィンド・バンドのために書いた初の作品で、その後も「マスク」(2001年初演)、「ディアギレフ・ダンス」(2003年)、「ヴァンヤンカ」(2005年)、「ダンスリーズ第2集」(2011年)なども作曲している。

www.kennethhesketh.co.uk

使用楽譜: Faber Music

## ドウエンデ 吹奏楽のための4つの前奏曲

(L.S.アラルコン)

1. Allegro giusto
2. Animato
3. Cadenza a piacere; molto sentito - Lento evocativo
4. Tempo de Buleria

本作について作曲者は次のように述べている。

「ドウエンデ」というのは本来フラメンコで使われる言葉で、インスピレーションと高度の洞察に到達した状態—魔法がかかった状態ともいえる—を指すが、踊り手がその状態に達することはきわめてまれである。また広義な意味では、きわめて優美な人物、はっきりとはいえないが何か抜きん出た魅力をもった人物を形容するために



も使う。この交響的前奏曲集に「ドゥエンデ」というタイトルを付けたのは、上記のような詩的な意味とは別に、この作品を作曲するにあたって、スペインのポピュラー音楽にインスピレーションを見出したからである。聴き手は、この曲にファリャの作品の交響的なエネルギー、アルベニスの「イベリア」の親密な雰囲気、トマティートやパコ・デルシアのフラメンコ・ギターの魔法、グラナダのサクロモンテのお祭りのような陽気さ、そしてこれを特に強調したいが、ジャズやラテン音楽などクラシック以外の音楽の様式の影響も感じるだろう。こうしたさまざまなスタイルのフュージョンによって、私は今日のスペインの社会の立ち位置を象徴的なかたちで反映したいと考えている。すなわち、多くの伝統を持ちながらも、同時に今の時代に適合した、コスモポリタンでモダンな社会なのである。

「ドゥエンデ」の演奏時間は約16分で、難易度はグレード5である。米国ミネソタ州セント・ポールのセント・トーマス大学シンフォニック・ウィンド・アンサンブルからの委嘱作品で、マシュー・J・ジョージ氏によって指揮された。彼がこのプロジェクトの実現を信頼してくれたことに感謝する。

ルイス・セラノ・アラルコンは、基本的に作曲は独学だが、作曲家としての形成に大きな影響を与えてくれた教師たちおよび彼が最初に音楽のレッスンを受けたチバのラ・アルティスティカ音楽協会には深い感謝の念を抱いている。現在では、アラルコンはスペインのもっとも傑出した作曲家のひとりである。彼の作品は25ヶ国以上で演奏されており、スペインをはじめ、イタリア、シンガポール、米国、コロンビアから招かれて自作を指揮している。バレンシアの国際吹奏楽コンクール、米国ミネソタ州のセント・トーマス大学、シンガポールのフィルハーモニック・ウィンズなどから委嘱を受けている。2006年にはホルチャーノの国際吹奏楽作曲コンクールにおいて、金管五重奏と吹奏楽のための「前奏曲と夜明けの踊り」で第一位に輝く。その後、2009年にも「見張る女 La Dama Centinela」で再び第一位を受賞し、この栄えある賞を二度獲得した初めての作曲家となった。作曲のかたわら、バレンシアの専門音楽院でアナリーゼと作曲を教えており、また2006年11月より、ベテラの音楽芸術センター交響吹奏楽団の首席指揮者を務めている。2009年7月にシンシナティで開かれたWASBE大会では、この楽団を率いて演奏を行なった。

serranoalarcon.com

使用楽譜：Piles editorial de music, s.a.

## イディッシュ・ダンス(A.ゴープ)

1.Khosidl 2.Terkische 3.Doina  
4.Hora 5.Freybachs

1998年3月9日、ティモシー・レイニッシュ指揮王立ノーザン音楽大学ウィンド・オーケストラによって世界初演された。

「イディッシュ・ダンス」はティモシー・レイニッシュの60歳の誕生日のために彼自身によって委嘱された。華やかなパーティー・ピースで、私の大好きな2つの分野、シンフォニック・ウィンド・アンサンブルとクレズマー（イディッシュ語を話す人々たちの民謡）を組み合わせている。

演奏時間は約14分で、5つの楽章はいずれもクレズマーの舞曲に基づいている。

- 1.ホーシドゥル 2/4拍子、中庸のテンポの曲で、風刺、感傷、哀愁といった曲想を自由に行ったり来たりする
- 2.テールキシエ アップ・テンポのユダヤ風タンゴ。
- 3.ドイナ 自由なレチタティーヴォで、バンドのさまざまな楽器が技巧をひけらかすチャンス。
- 4.ホラ ゆっくりとした3/8拍子の曲で、揺れるリズムが特徴。
- 5.フレイラッハ 速い2/4拍子の曲で、それまでの楽章の主題が回帰し、最後は全員による派手などんちゃん騒ぎとなる。  
Le Chaim!（人生に乾杯！）

作曲者による解説

二世代前まで私の一族の名前はゴルバレフスキーでしたが、20世紀初頭にロシアを去り、ドイツに移住しました。幸いなことに一族はドイツには留まらず、ベルギーに行き、そこから一部はアメリカへ、一部はイギリスに渡りました。イディッシュの文化というのは、旅をしながらさまざまな影響を受けてきたもので、ある種の皮肉のセンスと喜劇、悲劇が同居しています。私自身、喜劇的なものを書くとうとするときに、いかに喜劇が悲劇と隣り合わせであるかを強く実感します。映画「シンドラーのリスト」の中でもっとも心に残った場面は、ゲッターの中で絶望的な運命にある人々が冗談を言い合っていて、つとめて明るくふるまっていた場面でした。私はこれに感動し、この曲においてもそうした感じを出したいと思いました。

よく私たちは良い音楽と悪い音楽という言い方をしますが、その意味でいえば「イディッシュ・ダンス」は悪い音楽と言えるでしょう。なぜなら、表現がやや粗くメロディーもかなり露骨だからです。でも大失敗をまぬがれているのは、嬰ハ音と短調（の減5度または増4度関係）の緊張のおかげだと思います。それがなければ、たぶん1820年頃に作曲されてすぐに忘れられたハンガリー風のつまらない舞曲と言ってもよいような曲になっていたでしょうが、ある種の和声の緊張関係によって救われています。

アダム・ゴープは現代の英国を代表する吹奏楽曲の作曲家。ウィンド・バンドのための第一作「メトロポリス」(1993年、Maecenas Music)はきわめて刺激的で難度の高い作品で、1994年にウォルター・ビーラー記念作曲賞を受賞した。英国王立音楽院のウィンド・オーケストラのために書かれ、エドワード・グレッグソンによって初演された。その後も「ポスト・バーンスタイン」的ともいえる華麗な序曲「アウエイダー」(1996年、Maecenas Music)、ユーフォニアム協奏曲(1997年、Maecenas Music)、「イディッシュ・ダンス」(1998年)、「クレタ島の舞曲」(2003年)、「アドレナリン・シティ」(2006年)、「告別」(2008年)などを発表。そのほか経験の浅いバンドのために、「バーミューダトライアングル」、「ブリッジウォーター・ブリーズ」、「ろうそく行列」、「丘を越え、谷を越え」、「アイネ・クライネ・イディッシュ・ラグミュージック」、「小さな木の兵隊たちの行進」など数々の曲を作曲している。現在、マンチェスターの王立ノーザン音楽大学の作曲科主任を務める。

使用楽譜：Maecenas Music

解説執筆 T.レイニッシュ／伊藤康英(ホルスト、パッハのみ)

※本コンサートはビデオ収録しており、インターネットあるいはテレビ等にて公開されることがあり、観客の皆様が映る可能性があります。何卒ご理解いただけますようお願いいたします。

## 洗足学園音楽大学グリーン・タイ ウインド・アンサンブル

Senzoku Gakuen College of Music Green-Tie Wind Ensemble

本学の4つの吹奏楽団の一つ。学園の色の一つ「緑」を冠する。2009年伊藤康英(本学教授)と共に始動。2010年台湾演奏旅行(新竹教育大学)、2013年シンガポール演奏旅行(有志メンバー／ウェスト・ウィンズ)、2015年韓国演奏旅行(有志メンバー／漢陽大学)、2016年沼津公演(静岡県)、2017年、WMC国際指揮コンクール予選マスタークラスのモデルバンド。藤岡幸夫氏がナビゲーションを務めるBSジャパン「エンター・ザ・ミュージック」に2度出演。その他、福島県の伊達市歌レコーディングなど、活発な活動を行う。日本のみならずアジア各地にもファンを持つ吹奏楽団。

|                   |         |         |          |         |         |        |
|-------------------|---------|---------|----------|---------|---------|--------|
| 【Concertmistress】 | 石井 綾菜   | 吉田 雅崇   | 瀬戸 希     |         |         |        |
| 【Inspector】       | 鈴木 麻裕   | 高橋 優芽   | 武田 実幸    | 早野 友捺   | 吉村 真希   | 磯 茉莉枝  |
| 【Flute】           | 石井 真由   | 高橋 愛美   | 土屋 幸祐    | 堤内 なお   | 前原 希美   | 上田 彩友美 |
|                   | 加藤 千緩   | 菅原 路子   | (瀬戸口 綾菜) |         |         |        |
|                   | 坂上 葉    | 前田 樹里   | 三輪 桃子    | 持田 夏希   |         |        |
| 【Oboe】            | 柿沼 彩伽   | 田井 みのり  | 田幡 歩巳    | 原 萌雪    | 濱田 貴也   | 寺本 理菜  |
| 【Clarinet】        | 鈴木 歩    | 長谷川 絵理香 | 濱田 有希乃   | 平井 菜摘   | 山本 茉莉奈* | 高橋 有美* |
|                   | 中林 真優   | (楠瀬 有紀) |          |         |         |        |
|                   | 樋渡 彩*   | 鈴木 絵美華  | 西村 梨花子   | 塩沢 七穂   |         |        |
| 【Bassoon】         | 小俣 涼音   | 岩崎 舞    | 大久保 花奈美  | 尾上 桃可   | 鏡 奈々子   | 鈴木 麻裕  |
| 【Saxophone】       | 井原 拓人   | 渡邊 真大   | 阿南 ひかる   | 伊藤 優花   | 内山 初音   | 小田部 友梨 |
|                   | 関根 菜夏   | 高木 健斗   | 迫間 美和    | 福岡 拓斗   | 森谷 紗帆   | 小嶋 友和  |
|                   | 菊地 真理子  | 佐藤 志織   | 渋谷 優花    | 菅野 佑香   | 松下 沙世   |        |
|                   | 五日月 玲   | 菅野 翔平   | 鈴木 ほのか   | 服部 光政   | 赤城 和奏   | 神野 了丞  |
| 【Horn】            | 菊地 夏実   | 齋藤 楓谷   | (青木 菜奈)  | (中津 里菜) |         |        |
|                   | 加持 美夢   | 征矢 紘子   | 野上 里奈    | 配島 沙英   | 長谷川 日奈乃 | 平田 雄馬  |
| 【Trumpet】         | 吉田 雅崇   | 杉山 栄    | 田中 理恵    | 西村 亜希子  | 古川 晴菜   | 古田 萌々花 |
|                   | 松永 早紀   | 山田 哲央   | 岸 実咲     | 栗山 愛    | 國米 晴貴   | 藤井 綺花  |
|                   | 松本 奏太郎  |         |          |         |         |        |
| 【Trombone】        | 石毛 太陽   | 田口 博康   | 田辺 千尋    | 伴 文乃    | 川瀬 快    | 鈴木 暢達  |
|                   | 山本 有彩   | 荒谷 悠斗   |          |         |         |        |
| 【Euphonium】       | 小林 真依   | 間嶋 浅江   | 大西 礼美    | 古賀 光紗   | 吉野 秀樹   | 丸山 奈央  |
| 【Tuba】            | 濱田 真帆   | 林 史洋    | 佐藤 航平    | 鈴木 茜    | 島 守礼    | 廣野 健太  |
| 【Contrabass】      | 田中 麻由   | 村松 岳    | 前山 みなも   |         |         |        |
| 【Percussion】      | 金屋 優人   | 佐野 友香   | 三宮 愛梨    | 瀬戸 希    | 加賀美 諄   | 刈部 亜富夢 |
|                   | 吉野 海美   | 北森 帆乃香  | 須藤 愛佳    | 辻本 智裕   | 廣田 雅也   | 山田 祐佳  |
| 【Piano】           | 西村 京一郎* | 【Harp】  | 藤木 沙織*   |         |         |        |

\*…演奏補助要員

※本日の演奏には、永年交流がある台湾国立清華大学(旧・台湾国立新竹教育大学)(Professor and Band Director：鄭哲男(Cheng Che-Nan))の学生が参加しており、来年には台湾での交流も予定されています。

|            |                     |                      |                       |                     |
|------------|---------------------|----------------------|-----------------------|---------------------|
| Flute：     | 王之好 (Wang Chih-Yu)  | 陳盈琇 (Chen Ying-Hsiu) | 張嘉云 (Chang Chia-Yun)  | 李沅錚 (Li Yuan-Cheng) |
| Oboe：      | 王儷珈 (Wang Li-Chia)  |                      |                       |                     |
| Clarinet：  | 彭琤芸 (Peng Cheng-Yu) | 陳姿吟 (Chen Tzu-Yin)   | 陳俞帆 (Chen Yu-Fan)     | 謝雨恩 (Hsieh Yu-En)   |
| Saxophone： | 隋玉萱 (Sui Yu-Hsuan)  | 池晏辰 (Chih Yen-Chen)  | 張鴻鈞 (Chang Hung-Chun) |                     |
| Horn：      | 曹郡麟 (Tsao Chun-Lin) |                      |                       |                     |

|                   |           |                   |      |
|-------------------|-----------|-------------------|------|
| 合奏指導教員            | 伊藤 康英     | 近藤 久敦             | 仲田 守 |
| 企画運営責任者           | 伊藤 康英     |                   |      |
| アカデミックコーディネーター    | 福田 昌範     |                   |      |
| 授業助手              | 大沼 亜衣     |                   |      |
| Special Thanks to | 木村 圭太(通訳) | 後藤 菜穂子(翻訳／音楽ライター) |      |

## 今後のグリーン・タイ ウインド・アンサンブルの演奏会

2017年12月12日(火) 18:30 開演

会場：洗足学園前田ホール 指揮：ダグラス・ボストック 全席自由：1,000円

吹奏楽の古典名曲を名匠ボストック氏とVol.8

Douglas Bostock Presents Masterworks for Winds vol.8

～イギリスとフランスとの長い戦争の歴史を振り返りながら、今、考える平和。～  
Anglo-French Gala

プログラム  
L.v.ベートーヴェン／交響曲「ウェリントンの勝利またはヴィットリアの戦い」作品91(伊藤康英新編曲・初演)  
R.ヴォーン・ウィリアムズ／イギリス民謡組曲  
F.シュミット／ディオニソスの祭  
D.ミヨー／フランス組曲  
伊藤康英／グリーンズリーヴスの主題による幻想曲(世界初演)  
E.グレッグソン／王たちは出陣する





## 洗足学園音楽大学

ひと、音楽、未来、世界をつなぐ。

洗足学園音楽大学は、音楽の学びと実践を通じて、  
豊かな社会づくりに貢献します。

